

グローバル人材育成プログラム を経て

永 峰 誠 也
Seiya NAGAMINE
物質化学科 3年

1. はじめに

2018年8月22日から9月10日までの約20日間、アメリカのカリフォルニア州で行なわれたグローバル人材育成プログラムに参加した。この研修を通して得たことや、自分の直したい所などを書き記す。下の表1に今回の研修内容を示す。

表1 今回の研修内容

2018/8/22	現地時間12時入国 サンフランシスコ観光
2018/8/23	シリコンバレーIT企業見学ツアー
2018/8/24	スタンフォード大学見学
	グローバルキャリアセミナー
2018/8/25	ホストファミリー、現地学生との交流BBQ
2018/8/26~9/8	インターンシップ
2018/9/9~9/10	帰国

2. 参加目的

一回生の前期に受けたキャリア授業で、この四年間の大学生活をどうのものにしたいか考える機会があった。そのためにはまず何をいつまでに成し遂げるか、短期間の目標設定を行った。そこには、当時所属していたサークルの活動に打ち込みたいことや人見知りを克服するために顔合わせ二度目以降の相手に対してのアプローチ法を考えることなどを記した。そして将来的には簡単な英会話も出来るようになりたいという話ころまで思い描いた。しかし、現実とは逆の人生をおくりそうになっていた。人見知りは自分では評価しにくく、英会話も覚える、話す機会など皆無であったからだ。そのとき、三回生への進級間近にこの海外インターンシップの話聞いた。ここで初めて自分が行動していなかったことで理想とは遠い現実を送っているのだと思い至った。そして英会話の練習然り、自分が目指

している化学者とは何を製造し、何を得て、どんな環境を作っているのかもこの目で見てみたいと思ってこのプログラムに応募した。合わせてグローバル人材とは何なのかを考えることにより日本とそれ以外の国との視点の違いから、より良い化学とは何かを見つけるきっかけにしたいと考えた。

3. 現地セミナー

空港到着後、ホームステイがはじまる8/25まで Oracle, Auto Desk Gallery Workshop, Apple, スタンフォード大学, Google, Intel, コンピューター歴史博物館を訪れた。そして、SAP, Hero City の社員によるセミナーや、実際シリコンバレーで働く二人の日本人から話をうかがったグローバルキャリアセミナーもおこなった。特に感心したのは Apple であった。会社内を外から伺った我々にすぐに駆けつけてきて快く中に招いてくれたし、社内に入るなりたくさんの拍手で出迎えてくれた。さらにはお土産コーナーではレジらしきものがなく、商品を展示したテーブルの引き出しからお金を出し入れし、別のテーブルの下からレシートが出てきた。普段目にするレジというシステムからは想像できないすっきりとした雰囲気を演出しているだけでなく、しっかりと元々の機能を併せ持った造りにひどく感銘を受けた。

また、セミナーでは、日本の企業の現状がすこぶる悪くて最近になってようやく焦り始めている段階であるのだと語った人がいた。一方、最近東京の若い企業家達が育ってきているという人もいた。同じ日本の会社でも見方、注目点が変われば見えてくるものや気付くことが異なることがわかった例であった。グローバルキャリアセミナーで語ってくれた日本人は2人共が強い信念をもっている、そして自分や周りから答えを見つけるのが上手だという印象をもった。やりたいこと、なりたいことを見つけたらあらゆる手段を使って実現させてしまう人であったり、言語も分からないのにいきなりフランスやイタリアに行って上へ昇り詰めながらも決して満足せず

に新しい課題を見つけてはこなしていく料理人であったりと、その働く姿勢からやってやれないことはないということを学べた。

4. ホームステイ

私を受け入れてくれたホストファミリーは Rob & Mayumi 夫妻であった。我々龍大生とホストファミリーが初めて顔を合わせた交流パーティーでは真っ先に私に気付き、話しかけてくださった。その他にも嫌いな食べ物や好きな食べ物、小食か大食いかをきいてくれて、「今度作るね」と言ってくださった。料理に対する不安を真っ先に払拭してくれて有り難かった。ここでの家族ルールは「したいことはさせてあげる。けど無駄なことはしない。」であった。カルフォルニア州はこの時期水不足なので極力流しっぱなしの状態はしてはならなかったのと、出した食器や物は元の場所に必ず戻すことがルールとなっていた。つつい出しっぱなしにする自分にとってかなり良い習慣が出来たと思った。

そして、Rob 一家にはもう一人の学生がホームステイしていた。Suguru といって、私たちは Guru と呼んだ。彼は自分より二週間前からホームステイしていたのでわからないことや出歩くときの注意も教えてもらった。

二週間という短い時間で仲良くなるのは難しかったが「話す」と「聞く」をバランスよく織り交ぜて会話してくれた Rob 夫妻には本当に感謝している。更には日本人である Mayumi さんからは日本の食事文化で主人と喧嘩した話、アメリカに来たての頃の失敗談、これまで受け入れた龍大生とその他の大学生の話の話を聞かせてくれた。私と同じ研修先の学生

は今まで受け入れたことがなかったそうなので、他の研修先や他大学の人の思い出話は意外な発見があり、アメリカでの生活に活かされたものがあった。

5. インターンシップ

私が今回お世話になった企業は Senju Comtek Cop であった。日本に本社があり、従業員には日本人も多いので理解が難しい箇所は彼らに聞くことができた。顧客の8割は Intel で、半田ペーストや半田ワイヤー、半田ボールを製造して世界中の企業に輸出しているということであった。私が体験したのは製造、検査、出荷の手伝いであった。初日からオリエンテーション、安全管理について教えていただき、半田の原理についても講義していただいた。フラックスは有機化合物であるが、半田ペーストの品質自体は無機化学によって発明されている。授業では別々の分野で学んでいく学問だが将来的には有機分野でも無機化学を取り扱う所はあるという（逆もしかり）話は3年生で聞くようになった。その例を間近で見れて幸運だと思ったし、企業の代表は私と専門分野の領域が似ていたのでこんな将来もあるという選択肢が増えたのはプラスであった。これらにより、この研修先で行なわれている仕事の一連の流れを体験することが出来たのは大変貴重な経験であった。従業員はみんな親切で、聞き取れないことがあっても何回でも言い直してくれ、失敗があっても直ぐに対応してくれた。また研修後、会社の代表者である児島さんには難しく理解出来なかった箇所だけでなくシリコンバレー、アメリカの文化についての説明や意見を聞くことができた。